

まちかど・ズーム IN!

福岡中体育館改築工事安全祈願祭

福岡中学校体育館改築工事の安全祈願祭が4月20日、川井市長や工事関係者が出席して行われました。新体育館の床面積は1,609㎡で、校舎東側の白石川堤防沿いに建てられ、今年11月末に完成の予定です。設計には、ワークショップに参加した生徒、PTA、地域住民などの意見が生かされ、高齢者や身障者にやさしいバリアフリーを加味し、地域住民に開放されるクラブハウスや、生徒の部室などを併設しています。



地域住民にも親しみやすい体育館



いつまでもお元気で!



氷見志うさんに特別敬老祝い金を贈呈

100歳の誕生日を前にした東大畑の氷見志う(ひみしう)さん宅を4月20日に川井市長が訪れ、特別敬老祝い金100万円を贈り、長寿を祝福しました。志うさんは明治34年4月23日、長野県小諸町生まれ。東京での暮らしが長く、平成9年10月に白石市に転入してきました。現在は娘さん夫婦との3人暮らしです。長生きの秘けつは「三食きちんと食べること」、楽しみは「縫い物と、近くで開かれているふれあいサロンへ通うこと」と笑顔で話してくれました。

みなさんからの素敵な情報を待ってます!

水源保護地域が決まりました 公開による水道事業運営審議会



今年3月9日に施行した「水道水源保護条例」による水源保護地域について、白石市水道事業運営審議会が5月11日、城北コミュニティーセンターで公開の審議会を開き、市が示した原案を委員全員の賛成で了承しました。審議会が決定した水源保護地域は広報4月号でお知らせした区域案のとおりで、市の面積の56%に当たる約160km²です。

市では審議会の答申を受けて、23日に水源保護地域を指定しました。

おもいきり遊んだよ こどもまつり



五月晴れとなった5月13日、益岡公園の西側芝生広場で「こどもまつり」が開かれ、親子連れなど約500人が参加しました。

こどもまつりは、第一・第二児童館の主催で毎年行われているもので今年で25回目。ストラックアウトや輪投げ、人形劇など多彩なコーナーが用意されたほか、みそおでんと麦茶が無料で振る舞われました。

みどりを守ろう!育てよう! 市の花「ヤマブキ」を植樹

福岡蔵本の下原地区内(県道南蔵王・白石線から総合福祉センターに入る交差点付近の市有地)で「白石市みどりの日」の4月29日、市の花「ヤマブキ」の植樹が行われました。これは、昨年のこけし村での植樹に続いて行われたもので、今回が2回目。参加したのは下原自治会などからの約30人で、植樹の仕方などの説明を受けたあと、合計100本のヤマブキを1本ずつ丁寧に植えました。今後、植えられた樹木の維持管理は下原自治会により行われます。



EIG(英語)で話そう ワイワイ・ガヤガヤTalking

わいわいがやがやしながら気軽に英語を学ぶイベントが4月28日、壽丸屋敷で開かれました。



講師となったのは、白石市国際交流員のカロライン・ケネディさん、白石市外国語指導助手のステファニー・ヴァアアニさん、ジェフ・キヨオカさんの3人。参加した約40人は昼食を取りながら、時折、日本語混じりの英語?で自己紹介や白石のまちの話題などを話しました。次回は6月24日(日)午前11時から壽丸屋敷で開かれる予定です。

松木副知事が聞かれたという。「国会の各議員会館と議事堂とは地下道でつながっているという話ですが、宮城県庁と仙台市役所は地下道ではつながっていないのですか。」と真顔である。副知事答えて、「もちろんつながっていますよ。ただしハードではなくソフトでね。」見事である。

四月、葉桜になったころ、伊奈かつべいさんが撮影のために白石を訪れた。私は留守である。しかし、逃げたと思われるのもしゃくなので、共通のペンフレンドである竹内廣さんにこんなハガキを出しておいた。

「四月十七、十八日、かつべいさん来白の予定。残念ながら出張のため、巖流島の対決はまたおあずけです。」



川井市長のせせらぎトーク

ウィット

かつべいさんも同じようなことを考えたように、同じく竹内さんに「白石城」いろいろのい・・・市長また仙台に逃げたそうです。竹内さんからは、両方のハガキをコピーしたものが送られてきた。ただし書きがついている。「決して、ファイト、ファイトとけしかけるわけではありませぬ。情報公開の立場から、竹内手紙(紙)交換所」

話題になっっているイートヨーカ堂グループ、EY(アイワイ)バンク銀行社長の安斎隆さん。社長になる直前、ホワイトキューブで赤坂

達三さんのクラリネット演奏を堪能していかれた。「この忙しいときによく。」と言ったら、「残躯八天ノ赦入所、楽シマザレバ是レ如何。」とつぶやいた。日銀理事から長銀の総裁として後始末をした人にふさわしい感慨のこもった引用だと感動した。

我妻建治君が成城大学の学長になった。前回の学長選挙のときは、相手と投票数が同数となり、くじ引きで負けたという何ともタノシイ男である。早速ハガキを書いた。「就任の報を聞いた人たち、三人の感想。K君(市職員、成城大学出身)『それは素晴らしい。先生も力があつたんですね。』小生曰く『力があつたのは奥さんだろ。』大上の絃一君(彼がかつて家庭教師をした)『おめでたい、早速祝賀会をしなければ。』さすが商売人。そして治雄君(私の弟)『まさか、そんなことあるはずがない。誤報じゃないの。』以上。」

ハガキが届いて数日後、電話がきた。どうしたと尋ねたら、白石にいとやう。こ

ちらは危ないと思ひ、「勝手に食つたらいいさ。」と逃げた。ところが、本を読んでみると、夜十時すぎに突然家上がり込んできて、ハガキの書き方がどうのこうのとひどくさり説教を聞かせて帰っていった。口は災いの元と言つが、ハガキも結構災いの元になるようだ。

最後に私のこと。四月二十五日、ワカメのセーフガード適用について国に要望をしまわつた。報道陣がワカメと押し掛けていたが、どうせ県内版に出るだけだろうとたかをくくっていたら、全国版で流れたらしい。

果たせるかな。あちらこちらから反応があつた。概して悪評である。「ワカメのことなど分かるはずがないのに、なにをノコノコついていた。」いちいち弁解するもの面倒だから、こう言つておいた。「ご承知のように、私は山の市長です。ワカメならともかく、ワカメは何の関係もないですよ。」相手は大笑い。これだいたいが先は収まった。